**講演会**

**テーマ：グローバリゼーションと東アジア地域主義は歴史的“大分岐”を**

**克服可能か**

**http://www.waseda.jp/gsaps/news/news\_120425\_jp.html**

**講師：西川　潤　早稲田大学名誉教授**

**日時：2013年5月21日（火）　13：00－14：30**

**会場：早稲田大学大学院アジア太平洋研究科　19号館　7階　710教室**

**主催：早稲田大学中華経済研究所**

**共催：早稲田大学アジア太平洋研究センター東アジア地域研究部会**

**世話人：林華生　早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授**

**講師の略歴：**[**早稲田大学**](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%97%A9%E7%A8%B2%E7%94%B0%E5%A4%A7%E5%AD%A6)[**名誉教授**](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%90%8D%E8%AA%89%E6%95%99%E6%8E%88)**。経済学博士。専門は**[**国際経済学**](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%9B%BD%E9%9A%9B%E7%B5%8C%E6%B8%88%E5%AD%A6)**、**[**開発経済学**](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%96%8B%E7%99%BA%E7%B5%8C%E6%B8%88%E5%AD%A6)**。2008～2011年、国際開発学会会長を務め、英文書“Economic and Policy Lessons from Japan to Developing Countries”（Palgrave McMillan 2011）を共編して、日本の開発学を英語圏に発信した。早稲田大学**[**政治経済学部**](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%94%BF%E6%B2%BB%E7%B5%8C%E6%B8%88%E5%AD%A6%E9%83%A8)**卒業後、早稲田大学**[**大学院**](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A7%E5%AD%A6%E9%99%A2)[**経済学研究科**](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%B5%8C%E6%B8%88%E5%AD%A6%E7%A0%94%E7%A9%B6%E7%A7%91)**、**[**パリ大学**](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%91%E3%83%AA%E5%A4%A7%E5%AD%A6)**高等学術研究院に学ぶ。1968年から38 年間、早稲田大学政治経済学部で教べんをとる。この間、早稲田大学理事（1994～99年）として、早稲田大学最初の独立大学院であるアジア太平洋研究科の設立に携わり、同研究科発足後は「平和と人権論」「経済発展論」を担当する。2007年、早稲田大学を定年退職。パリ第一大学、ポートランド大学、チュラロンコーン大学、北京大学等の客員教授を務める。また、国連特別研究員（1981－83年）としてニューヨークに勤務した。著書には、『人間のための経済学』（岩波書店、2000年）、『世界経済入門　第3版』（岩波新書、2007年）、『国際移動と社会変容』（岩波講座「東アジア共同体の構築」第3巻、共編著、2007年）、『グローバル化を超えてー脱成長期　日本の選択』（日本経済新聞出版社、2011年）、『開発を問い直す』（共編著、日本評論社、2011年）などがある。**

**講演の要旨：最近数十年間、世界的に拡がったグローバリゼーションは、南北等の地域格差や貧富格差の問題を拡大し、WTO交渉の失敗、金融恐慌、先進国政府の債務危機等一連の深刻な問題を生み出した。この事態に際して、世界的に地域主義への動きが高まった。東アジアではだが、東アジア共同体（EAC）,東アジア首脳会議（EAS）,TPP等、異なる地域主義構想が相対立している。こうした時点においては、東アジアの地域主義とは何かを、原点に帰って歴史的に検討することから、可能な協力の方向を探ることが望ましい。本講では、最近経済史の新しい常識となりつつあるグローバル・ヒストリーの手法を援用して、「大分岐」（great divergence）をアジア諸国民がどう克服可能か、を考えてみたい。**

**＝来聴歓迎＝**